

3 番 和 田

受付番号 8 番、質問議員 3 番、和田成功です。

件名、D52を活用した元気なまちづくりについて。

2016年 3 月 18 日、48年の永い眠りから復活を遂げた蒸気機関車D52-70号機、以降D52と言う。2017年 8 月 26 日ふるさと交流センター 2 階には山北町鉄道資料館もオープンした。ボランティアの皆さんが説明し、来町者へのPRもしている。民間ではD52関連グッズ開発販売、D52軌道延伸の募金活動など、いろいろな活動をしている現状がある。

また、唯一動くD52の御殿場線への乗り入れには、多くの問題や課題があると同時に地域振興の期待も多く、町民の夢でもある。このことが可能になれば山北駅周辺及び御殿場線沿線地域もにぎわい、経済効果などが期待される。D52を活用した元気なまちづくりを推進している当町としても十分検討する価値があると考え、質問する。

1、山北町の観光資源の一つでもある、唯一動くD52や山北町鉄道資料館などによる観光入込客、観光消費額など、山北駅周辺の具体的な活性化状況はどうなっているのか。

2、D52軌道延伸計画が具体的に見えていない、現在の進捗状況は。

3、D52の整備運行において、専門的な業務委託であると思うが、今後も継続的な委託が可能なのか。また、定期的に整備運行を行うに当たって、運転や整備を担う人材の安定した確保が必要であると聞いている。町の考えは。

4、御殿場線へのD52の乗り入れには、町民も相当関心を持っている。唯一動くD52があり、D52を活用した元気なまちづくりを推進するには、将来的に御殿場線への乗り入れまで視野に入れた調査・研究を進めるべきと思うがどうか。

議 長

答弁願います。町長。

町 長

それでは、和田成功議員から「D52を活用した元気なまちづくりについて」の御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「山北町の観光資源の一つでもある、唯一動くD52や山北町鉄道資料館などによる観光入込客、観光消費額など、山北駅周辺の具体的な活性化状況はどうなっているか」についてであります。昨年10月に開催されましたD52フェスティバル当日の来場者数は、1,500名に上り

ました。本年度は、10月13日の日曜日に開催予定で、ことしも多くの観光客が訪れると考えております。また、昨年度に開設いたしました山北町鉄道資料館は、115日の開館で延べ3,822名が訪れており、本年度の4月から7月までの利用状況は、41日の開館で延べ802名となっており、前年同時期と比べて約100名の利用者増という状況となっております。

D52関連グッズにつきましては、現在14事業者16商品が登録されております。現状では関連グッズに関する観光消費額について、具体的な数値の把握には至っておりませんが、今後のD52フェスティバルの開催などにより販売成果について、情報収集を行っていきたいと考えております。

また、山北駅周辺の活性化については、D52の活用と連携した桜まつりや夕市などにより図ってまいりたいと考えておりますが、山北駅周辺の活性化は、第5次総合計画後期基本計画にも位置づけている重要な施策のため、今後も山北町商工会や山北駅前商店振興会などと連携し、D52の活用などにより駅周辺のにぎわいの創出に努めていきたいと考えております。

次に、2点目の御質問の「D52軌道延伸計画が具体的に見えていない、現在の進捗状況は」についてであります。初めに、山北鉄道公園に保存されているD52は、昭和45年4月に教育などの展示資料として、一般に供覧するため、旧日本国有鉄道と町で無償貸借契約を締結し、現在の場所に展示を開始したものであります。その後、山北鉄道公園保存会の方々の御尽力により、まれに見る良好な状態が維持されてきたため、動態化の機運が高まり、平成28年に東海旅客鉄道株式会社から町が車両を譲り受ける契約を締結し、平成28年10月に圧縮空気を動力源として、動態復元がなされ、復活運行を実現しているところでございます。

御質問のD52の軌道延伸計画についてであります。現在、町では、後方へ延伸する方向で検討を進めております。しかし、後方延伸に当たっては、設置がしてある遊具を移設する必要があるため、その取り扱いについて、都市公園法に則り対応を協議しているところであります。都市公園は、人々の憩いとレクリエーションの場となるほか、都市景観の向上、都市環境の改善、災害時の避難場所として機能するなど、多様な機能を有しているため、適正に管理していくことが求められております。これらを踏まえ、D52の軌

道延伸につきましては、慎重に検討し、今年度中には結論を出したいと考えております。

次に、3点目の御質問の「D52の整備運行において、専門的な業務委託であると思うが、今後も継続的な委託が可能なのか。また、定期的に整備運行を行うに当たって、運転や整備を担う人材の安定した確保が必要であると聞いている。町の考えは」についてであります。D52の整備運行については、専門知識を有する鉄道文化協議会群馬支部に委託し、整備運行を実施しているところであり、今後も継続的な委託は可能と考えております。しかし、運転士は鳥取県から来られ、ほかの方も高齢のため、新たな人材育成が必要不可欠であります。このため、町はD52の整備運行の担い手となる人材確保のため、栃木県真岡市に依頼し、同じ稼働システムの真岡鉄道に4名の方を派遣いたしました。受講された方からは、運転操作のかげんが難しく、引き続き研修を受ける必要があるとの報告を受けているため、今後、軌道延伸した場合には、本町のD52を使って研修を継続し、整備運行の担い手となっただけできるよう、積極的に取り組んでまいります。

次に、4点目の御質問の「御殿場線へのD52の乗り入れには、町民も相当関心をもっている。唯一動くD52であり、D52を活用した元気なまちづくりを推進するには、将来的に御殿場線への乗り入れまで視野に入れた調査・研究を進めていくべきと思うがどうか」についてであります。2点目の御質問でもお答えしたとおり、D52の魅力を高めるために、まず現在の場所で後方への軌道延伸について実現させ、山北駅周辺のにぎわいづくりや地域振興につなげていきたいと考えております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 御答弁を聞いて、ある程度、経済効果というか、観光客がふえているという答弁でしたが、さらに効果を上げるために鉄道公園や町内の東名高速道路の歩道橋などに横断幕を設置し、唯一動くD52など、山北町をPRしながらD52を活用した元気なまちづくりに積極的に取り組むべきと考えますが、いかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 さまざまなPRというのは、当然、必要だと思いますけれども、そういっ

たような横断幕等については、設置する場所が、やはり道路交通法で決められておりますので、そういった中では許可が出るようなところにはそういったような関係が可能ではないかと思えますけど、多分、陸橋あたりはちょっと難しいのかなど、私は個人的には思っています。駅のホームでしたら何とかなるかもしれませんが、そのようなことは考えていきたいと思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 東名高速道路の跨道橋のほうなんですけど、ほかの市町村とかはついていますので、可能かと思うのですけれども、取り組まれるお気持ちは。

議 長 町長。

町 長 それらも大丈夫なものともずいものところがあるというふうに私は思っておりますので、それらのほうも問題がなければ可能だろうというふうには思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 可能ということは、今後取り組んでいく方向で考えるということによろしいのでしょうか。

議 長 町長。

町 長 どういうふうにするかについては、私は、今の和田議員のおっしゃるようなことはよく理解しておりますけれども、毎年一つずついろいろなことをやっていきたいというふうに思っておりますので、その中にそういったような横断幕とか、そういったことも含まれるのではないかとというふうに思っておりますので、直ちに何でもやるというようなことではなくて、その中で取捨選択して、2年目には鉄道資料館というようなこともやりましたし、また、3年目、4年目というようなところの中で一番適宜なものをしていきたいというふうに考えております。ことしに関しては、でごにの妹バージョンというふうなものも考えておりますので、そういった中でPRにつなげていきたいというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 実現の方向で検討していただければと思います。

続きまして、1番の質問に関連してですけれども、観光客の方がふえてい

るといって、御殿場線を利用される方も多いかと思いますので、その辺の利便性向上のためにもICカードのエリアまたぎ利用を可能にすることは重要だと考えます。そこで、東京2020オリンピック自転車ロードレース競技が開催され、山北町の一部がコースに含まれ、ゴールが小山町の富士スピードウェイになり、首都圏からも多くの観戦客などが御殿場線を利用すると見込まれ、エリアまたぎ利用を可能にするための要望には、今が最大のチャンスではないかと考えます。IC議連としても要望活動を積極的に推進していきますが、町でも今まで以上に関係機関へ積極的な働きかけをすべきと考えますが、いかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 ICカードについては、またがりという、今せっかく各駅にICの読み取り機がついたんですけども、まだ国府津のほうができていないということで、そういったことについては、これからも御殿場線利活用の総会というんですか、の会議でも積極的に推進していきたいというふうに思っております。また、オリンピックのロードレースについては、今さまざまなもの、Tシャツというんですか、ポロシャツをつくったり、あるいは今クリアファイル等もやっておりますので、そういった意味では、さまざまな機会に山北町を訪れていただける方をふやしていきたいというふうに考えております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 その点については、わかりました。

次に、2番の質問の延伸計画についてですけれども、後方に延伸する方向で検討していると、今おっしゃられましたけれども、どの程度か、数字的なものがわかれば、教えていただきたいと思うんですけど。

議 長 都市整備課長。

都 市 整 備 課 長 後方への延伸ですけれども、公園内約25メートル程度の距離を考えております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今、後方へ25メートル程度という御回答をいただきましたけれども、それ以上伸ばすことも可能でしょうか。

議 長 都市整備課長。

都市整備課長 昨日の一般質問の中でもありましたように、25メートルというのは、ほとんど公園内の敷地全てを使うぐらいの延長ですので、それ以上伸ばすということは、現在のところ難しいような状況だと思います。

議長 和田成功議員。

3番和田 はい、わかりました。それ以上はちょっと難しいという現状だということがわかりました。

その点、整備運行等、延伸等について、ちょっと関連して質問させていただきます。

町では、ふるさと納税の希望する事業を指定する項目にS L・D52関係とありますが、指定された寄附金総額は、また、使い道にD52の維持管理・運行等となっていますが、実際に寄附された方々の意向を反映した使われ方をしているのか、お聞かせください。

議長 商工観光課長。

商工観光課長 昨年度、D52関連で寄附を受けた金額なんですけども、1,114万3,000円ほどのD52関連での寄附がありました。それに対して、575万円、D52関連で支出のほうをしてございます。これについては、有効なD52の運行・維持等々に活用した金額ということになるかと思えます。

議長 和田成功議員。

3番和田 しっかり寄附された方々の意向を反映して使われているようだと思いました。

続きまして、軌道延伸の資金についてですけど、既に民間では軌道延伸資金の募金活動をして、町に寄附していると聞いています。町として、資金調達のために、ふるさと納税型クラウドファンディングなどの活用を検討されてはと思いますが、いかがでしょうか。

議長 商工観光課長。

商工観光課長 D52-70の延伸のための資金調達の関係なんですけども、このふるさと納税を活用したクラウドファンディングは、非常に有効な手段であると、そのように認識しております。それで、既に担当課のほうではクラウドファンディングについて、いろいろと検討のほうをさせていただいております。それで、クラウドファンディングを実施するに当たって、資金調達する金額をま

ず明確にしなければいけない、それと、集める期間、どのぐらいの期間で集めるのかといったことを決定した中で、クラウドファンディングを実施していくといったことでございますので、延伸の方向が判明した中で、その前に集めないといけなわけなんだろうから、その延伸と歩調を合わせながらクラウドファンディングの取り組みについて検討し、実行していきたいなど、そのようにも考えてございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 クラウドファンディングについて、前向きに検討されて取り組んでいきたいという答弁でよろしいでしょうか。

議 長 商工観光課長。

商 工 観 光 課 長 そのとおりでございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 では、続きまして、3番の運転や整備を担う人材の安定した確保についてですけど、今現在も真岡鉄道のほうに4名派遣して運転体験等でやられているようですが、協働のまちづくりを推進している当町としては、人材の育成を町内のボランティア団体等とさらに連携し、官民一体となって取り組み、将来的には町内外の人材が町に定着して整備運行を定期的に行えるようにすることで定住対策にもつながるかと思えます。そういう部分で積極的に人材育成等に取り組まれるべきと考えますが、いかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるとおり、せっかく動態化ができた、しかし、距離が余りにも短いために、なかなか運転していただく方を育成したり、あるいは、また、そういったようなことが難しいということで、少なくとも今のところ、後ろに25メートルぐらいですから、全体で30メートルちょっとというようなことになりますので、それで運転が多少でも、今よりかなり訓練にはなるんではないかというふうに思っておりますので、まず今のところは、そういったような養成していくために延伸を若干させていただいて、それで不備があれば、また、さらに延伸等も考えていかなければいけないというふうに思っておりますけれども、人材確保というのは、やはりおっしゃるように、一番、今我々に課せられた課題だろうというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。
3 番 和 田 整備運行に対して、定期的に行いたいという民間の団体の方もいられるようなので、積極的に、そして、延伸計画と並行して、人材育成を、延伸ができてから人材育成ではなく、延伸したときには、ある程度の人材が確保できているような状況にするためにも、延伸計画と並行して取り組まれるべきと考えますが、いかがでしょうか。

議 長 町長。
町 長 答弁でも申しあげましたとおり、真岡鉄道さんのほうに、4名の方が講習に行かれて、そして、そういったような中から、運転については、そういったような人材を今後も募集していく、そういったようなことは、当然、やっていかなければいけないというふうに思っております。それ以外のいろいろな整備とか、そういったものについては、今協力いただいている、いろいろな団体がございますので、その人たちと協議しながら、どういうふうにするのが一番いいかというようなことはやっていきたいというふうに思っております。ですから、誰でも整備したいから受け入れるということは、町単独では、ちょっと難しいと思いますので、やはり、今かかわっているさまざまな団体がございますので、その人たちとよく協議しながら進めてまいりたいというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。
3 番 和 田 各団体とは協議をして進めたいということでした。今以上にといいますか、連携を深めて、この問題に取り組んでいかれて、人材育成等に関しまして、なかなか大人数では学んでいけないのかと思いますので、マニュアル化等も含めて、マニュアルの整備等も同時進行でやれたらいいと思うんですが、いかがでしょうか。

議 長 町長。
町 長 今現在、委託しているところがございますから、その委託された圧縮空気で行っているわけですから、そういったような中で整備に問題がないような、そんなようなやり方でやっていきたいというふうに思っておりますので、あくまでも、今現在は委託をしているということですから、その委託先を変えとか、そういうことではございませんので、そういった中でしっかりとそ

ういった人材を育てていきたいというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 はい、わかりました。人材育成に積極的に取り組まれるということで、よろしいかと思えます。

続きまして、4点目ですけど、将来的に乗り入れを視野に入れた調査・研究に取り組む、今現状、大変問題も大きくて難しいかと思えますけれども、将来チャンスが来たときに速やかに乗り入れが可能になるような方向で、調査・研究をこれからも続けていかれたほうがよいかと思えますが、いかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 きのうの質問の中でもお答えしましたけども、基本的にJR東海さんとの契約の中で、町としては乗り入れをしないというような覚書が交わされております。そういった中で、しかし、実際に乗り入れができれば、非常にいいことではないかと思えますので、きのうも申し上げましたとおり、少なくとも御殿場のほうに向かっては無理だろうけど、松田なり、国府津に向かっては、割と平たんではございますから、そういったような中で、各種団体からも乗り入れの希望があれば、それは、我々は取り次いでやっていくというふうには考えておりますけども、町から要望を直接出すというようなことは、ちょっと今のところできないというふうに考えております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 ほかの団体等から要望があれば、乗り入れのほうを検討していきたいという御答弁でしたが。

議 長 じゃあ、町長。

町 長 各種団体、いろいろなところから要望があれば、それを要望書として届けるとか、かわりにやることはやぶさかではないということでございますので、その要望があったから、町として延伸乗り入れさせてくださいという要求は、やはり覚書の中ではできないというふうに認識しておりますので、あくまでも取り次ぎをまずさせていただいて、その中でどういうふうに進めていくかというふうなことだと思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 はい、わかりました。要望があったら届けるという方向で、そうしたときに、やっぱり乗り入れを視野に入れた調査・研究はやられたほうがよいかと思いますが、現状、視野に入っているのかどうか、お聞かせください。

議 長 町長。

町 長 覚書を交わしたときのJR東海さんの理由でございますけれども、基本的には、まず線路の加重の問題、あるいは煙害、動力が石炭ではございませんので煙害はないと思いますけど、あるいは騒音、そういったようなことを理由に乗り入れはだめだというふうに言われておりますので、言ってみれば、それらをクリアできるような案件を考えていただいて、それに対して可能であれば、町のほうとしても、その要望が聞き入れていただければ、応援していきたいというふうには思っておりますけれども、一つには騒音をどうするかとか、あるいは線路の加重を、私は細かくわかりませんが、調査するのなら調査するのは、一体、費用はどこが出すんだというような、そういったようなことだというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 現状では、大変難しいという感じでというのは理解しておりますけれども、視野に入れて、今後も調査・研究を取り組まれることを期待して、質問を終わります。